

●補充

世田谷区教育総合センター内に設置される乳幼児教育支援センターについて

◆福田たえ美 委員 これより公明党の補充質疑を行ってまいります。

我が党は十年以上にわたり一貫して幼児教育の重要性を訴えつつ、幼児教育センターの早期創設を求め続けてまいりました。なぜ一貫して訴え続けてきたのか。それは、一生に一度しかない幼児期における教育が、人格形成の基礎を培う重要な時期の教育であると考えられるからです。二〇〇〇年にノーベル経済学賞を受賞したジェームズ・ヘックマンは、五歳までの教育が人の一生を左右すると指摘しております。

今年は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、多くの幼稚園、保育所等では、今までの集団教育・保育から休園、縮小保育、分散登園などの実施となり、現場での御苦労が大変大きかったと察します。しかし、この経験が新たな乳幼児教育の視点を生み出す時期とも捉えられます。

国は平成二十九年に幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂、保育所保育指針の改定が行われました。この改定により整合性が図られ、幼稚園、保育所、認定こども園の三施設における共通事項が定められました。生きる力の基礎を育むための資質、能力を育むこと、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を明確にして取り組むこと、小学校教育との接続をより円滑にすることなどが示されました。施設にかかわらず共通の取組をもって幼児教育が実施される土台ができ上がったと言えます。

同年、国におけるこの改定をベースに世田谷区幼児教育・保育推進ビジョンを策定されました。乳幼児期における教育・保育の充実、幼稚園、保育所、認定こども園、小学校の連携など五つの指針を掲げ、幼稚園、保育所等と小学校の連携を重視した取組の方向が示されました。このビジョンを推進する要となるのが、世田谷区立教育総合センター運営計画（素案）に示された乳幼児期の教育・保育の支援機能になります。

ここで伺いいたしますが、世田谷区教育総合センター内に設置される乳幼児教育支援センター。教育総合センター運営計画には乳幼児期の教育・保育の支援機能として示されています。乳幼児期の教育・保育の支援機能とは、具体的にどのような取組が行われるのか、伺いいたします。

◎浅野 教育総務部長 乳幼児教育支援センターでは、公私の枠を超えた幼稚園、保育所等における世田谷区全体の乳幼児期の教育・保育の質の向上を目指します。そのため、各種研修や専門人材の派遣等により、教員、保育士等の人材育成を図ってまいります。また、世田谷型乳幼児教育・保育スタンダードカリキュラムの開発、共有化などを通じて、乳幼児期の教育・保育から学校教育への円滑な接続を図る仕組みづくりに取り組んでまいります。さらに、子どもたちが非認知的能力等を育むための環境づくりや、家庭の教育力、養育力の向上のための講座、講演会の実施、また、保護者への相談対応といった家庭教育の

支援などに取り組んでまいります。

◆**福田たえ美 委員** 乳幼児教育支援センターは、従前の教育センターにはない初めての機能となります。教育と保育の連携体制が十分に確立されていない中、公立、私立の幼稚園、保育所等における乳幼児教育の支援を確実に進めていくためには、まずは体制づくりが重要と考えます。教育総合センター開設前、また、開設した後の、この継続的な体制づくりをどうしていくのか。乳幼児教育支援センター機能を果たすために、区内の公立、私立の幼稚園、保育所等の連携体制の構築を進めていく必要があると考えますが、区の見解をお聞かせください。

◎**浅野 教育総務部長** 乳幼児教育支援センターにつきましては、乳幼児期の教育・保育全体の質の向上を目的としていることから、区立幼稚園を所管する教育委員会だけでなく、公私立の保育園を所管する保育部、私立幼稚園を所管する子ども・若者部が緊密に連携しながら進めてまいります。具体的には、乳幼児教育支援センターの運営開始前から、乳幼児の教育・保育の在り方について検討する会議を設定するとともに、運営開始後は事業の検証を実施する場を設けるなど、公私立の幼稚園、保育所等の枠組みを超え、質の高い乳幼児期の教育・保育を推進できる体制の構築を図ってまいります。

アプローチスタートカリキュラムの取り組みについて

◆**福田たえ美 委員** しっかりと、この体制の構築につきましては、今後のこの乳幼児教育支援センターの要ともなりますので、しっかりと進めていただきたいと思います。

国においては、幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う、重要であるとの認識により、幼児期から児童期につなぐ教育の視点を重視した方針を示しております。区においては、乳幼児期における教育・保育と小学校教育の円滑な接続のため、幼稚園、保育所等ではアプローチカリキュラムを、小学校ではスタートカリキュラムを実施しています。区では先行してアプローチスタートカリキュラムを試行していると聞いておりますが、現在の取組についてお伺いいたします。

◎**浅野 教育総務部長** 区では乳幼児期の教育・保育と小学校教育との円滑な接続を目指し、世田谷版アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを作成し、平成二十九年度から三十年度の試行を経て、現在は全ての区立小学校、区立幼稚園、保育所等で取組を実施しております。また、幼稚園、保育所等には乳幼児教育アドバイザーを派遣し、カリキュラムの効果的な実践等に向けた助言等を行っております。

この取組の結果について区立小学校、幼稚園、保育園からの意見を聴取したところ、小学校からは、入学期における児童の不安が軽減された、また、幼稚園、保育所等からは、一つのことをやり遂げた成就感や達成感が自己肯定感につながりまして、新しい環境になっても適用する力が持てるようなスタートとなったというような声もいただいております。

今後は、現場から出された課題等も分析しながら、さらに効果的な実施手法について研究してまいります。

◆**福田たえ美 委員** 世田谷区内の区立の小学校、幼稚園、保育所等では、このアプローチスタートカリキュラムを実施されておるといことで、この幼稚園、保育所等と小学校の円滑な接続が、ある一定、効果があったというふうに今の御答弁で理解をいたしますが、カリキュラム自体が万全なものではないと考えております。より一層円滑な幼保小の連携を行えるよう、アプローチスタートカリキュラムを見直しながら、区が目指す乳幼児期の教育・保育への支援となるスタンダードカリキュラムの作成を目指すべきと考えます。

令和三年度の計画には、アプローチスタートカリキュラムの改編、スタンダードカリキュラムの統合となっていますが、この改編、統合とはどのように実施していくことなのでしょうか。区の見解をお聞かせください。

◎**浅野 教育総務部長** アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムは、それぞれ小学校入学準備段階の幼児と小学校入学後の児童が、乳幼児期の教育・保育から小学校教育へと円滑に進むことを目的とした教育・保育のカリキュラムとして、一定の効果があったものと考えております。

今後、この二つをスタンダードカリキュラムの中に組み込み、公私立の幼稚園、保育所等の枠を超えて共有化を図っていくことで、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの私立幼稚園、保育所等への普及を進めるとともに、乳幼児期から小学校接続期までを通した教育・保育の充実を図ってまいります。

スタンダードカリキュラムの作成について

◆**福田たえ美 委員** といことで、このアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムは、ある程度限定された年齢の方が対象となるカリキュラムとなっていると思いますが、このスタンダードカリキュラムになることによって、乳幼児期から小学校までという全ての世代を包括していくカリキュラムになるというごとの理解でございますが、我が党として令和元年第二回定例会において、実は、大阪府堺市の幼児教育堺スタンダードカリキュラムというものを例に挙げ、世田谷版スタンダードカリキュラムの作成の提案をさせていただきました。堺市では、このゼロ歳から五歳児までの発達と保育の連続性というものを示しながら、幼児期の教育と小学校教育を円滑に接続するカリキュラムを作成しております。

区は、幼児教育ではなく、この乳幼児教育としていることから、堺市のようにしっかりと、このゼロ歳児からの育ちの連続で、幼児期の終わりまでに育てほしい姿を共通認識して進めていく、このスタンダードが重要と考えております。就学前の乳児期から幼児期の全ての子どもたちが質の高い教育・保育を享受できるよう、就学前教育のための世田谷

版スタンダードカリキュラムの作成を求めてまいりました。

今回の第三回定例会の代表質問におきましても、スタンダードカリキュラムの作成については、令和三年十二月の教育総合センターの開設までに作成との御答弁をいただきました。この令和三年十二月の教育総合センター開設に合わせ、この世田谷版スタンダードカリキュラムを作成することとありますが、作成までのスケジュールなどについてお伺いいたします。

◎浅野 教育総務部長 スタンダードカリキュラムの作成につきましては、現在、公私立幼稚園、保育所等の代表等で構成しております世田谷区幼児教育・保育情報連絡会に複数名の学識経験者などを加えまして、新たな会議体を拡大再編し、本年中に第一回目を開催することを予定しております。新たな会議体につきましては六回程度開催し、令和三年十二月までにカリキュラムの具体的な内容を取りまとめたいと考えております。

◆福田たえ美 委員 六回開催予定ということで、しっかりと議論を煮詰めていただきながら、教育総合センターの開設に合わせ、しっかりと進めていただきたいと思っております。

この世田谷版スタンダードカリキュラムの作成についてなんですけれども、幼稚園や、また、保育所等の現場の声をいかに反映して、実りあるカリキュラムにできるかということが肝かと思っております。世田谷版スタンダードカリキュラムの作成には、専門家、幼稚園、保育所等の現場に従事する幼稚園教諭、保育士、保育教諭の代表の方々の御意見を十分に取り入れながら策定していくべきと考えますが、区の見解をお聞かせください。

◎浅野 教育総務部長 スタンダードカリキュラムの作成に当たる新たな会議体につきましては、乳幼児期の教育・保育に専門的な知見を有する複数名の学識経験者の方々に御参加いただき、御意見を伺いながら検討を進めてまいりたいと考えております。また、乳幼児期の教育・保育の現場の声を十分に生かすために、区内の公私立幼稚園、保育所等の教員、保育士等で構成する作業部会を設置しまして、日々の実践に基づく現場教員、保育士等の方々の知識や経験をカリキュラムの中に生かしてまいりたいと考えております。

乳児期から児童期への連携体制について

◆福田たえ美 委員 第二回定例会の我が会派の代表質問において、乳幼児教育支援センター開設に向けた準備についてお聞きしたところです。世田谷区幼児教育・保育情報連絡会による意見交換会等を通じて準備を進めていくということでしたが、このスタンダードカリキュラムの実践を通じて、幼児期から児童期への接続の視点を大きく取り上げながら、世田谷らしい、この乳幼児期の教育と保育をどう進めていくのか。小学校との円滑な接続の視点を包含しながら、継続的に区内の公立・私立幼稚園、保育所等の連携体制



が乳幼児教育の支援の要と考えます。

ところが、区内のこの就学前の教育・保育施設の所管が実は異なっております。区立、私立の保育園、私立認定こども園は保育部、私立幼稚園は区長部局の子ども・若者部、区立幼稚園、区立認定こども園は教育委員会事務局が所管であります。このように既に三つに分かれております。また、公立、私立では経営体制、教育方針も様々で、意見交換の機会さえもつくりができなかったと思います。公立、私立、幼稚園、保育所等の種別を超えて、この子どもの教育・保育の在り方への話し合いを活発に進めていくということが必要であります、大変そこにも壁があるということも実感いたします。

会派で視察をいたしました、全国に先駆けて幼児教育センターを開設した京都市のこどもみらい館。こどもみらい館では公立、私立の幼稚園、保育所の垣根を越えた共同機構として取組を行っております。この共同機構の中で研究プロジェクトというものがありまして、そこで考え出したのが幼保小の連携、接続のポイントというものを編み出しております。

その中で重要なポイントといたしまして、名前と顔が分かる関係、園や学校を見せてもらう、交流は回数ではなく質、やってよかったと実感できるといった、こういった四つの視点を挙げながら、この幼保小連携の接続のポイントとして挙げております。これらの視点も意識をした研修などの場の創出が重要であるとされております。また、福井県の幼児教育支援センターでも、名前と顔が分かる関係の構築にもつながるような形式を取り入れた研修を活発に実施をしております。

ここで伺いいたしますが、公立、私立の幼稚園、保育所等の垣根を越えた公私幼保育連携の構築が、今後の乳幼児教育支援を決すと言っても過言ではありません。まずは乳幼児教育の充実という同じ目標の下、公私幼保問わず共に学べる研修の開催などの実施で、交流の機会を増やすことも大きな一歩と考えますが、区の見解をお聞かせください。

◎浅野 教育総務部長 小学校と幼稚園、保育園との連携につきましては、現在、就学前の園児が小学校を訪問して、施設の見学や小学生との交流を行っている例もございます。今後は、先ほど申し上げましたアプローチスタートカリキュラムの取組に加えまして、小学校と幼稚園、保育園との相互交流の活性化にも取り組んでまいります。

また、幼稚園と保育園との連携につきましては、区では合同研修の実施を通して、スタンダードカリキュラムの共有化を図るとともに、配慮を要する子どもへの対応、非認知的能力の育成に向けた環境づくりなど、公私立幼稚園、保育所等の別を問わず、乳幼児期の教育・保育に携わる教員、保育士の方々の能力の向上に取り組んでまいります。

さらに、共通した研修体系、体制の構築を図ることによりまして、例えば幼稚園は保育所等で行われている充実した研修体系を参考にすることや、保育所等は、幼稚園における長年にわたり蓄積された幼児教育の手法など、お互いの優れた部分を学び合い、共有化することができるようにしたいと考えております。



◆福田たえ美 委員 初めての乳幼児教育支援センターということで、大変な御苦労もあるかとは思いますが、世田谷区の子どもたちのために、しっかりと頑張っていたいただきたいと思います。

以上で私からの質問を終わり、板井委員に替わります。